

田中復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見①会見録

(令和元年12月22日(日) 14:23～14:30)

於) 福島県営あづま球場1階玄関ホール)

1. 発言要旨

本日、12月22日日曜日、相馬市で復興支援道路として整備を進めておりました東北中央自動車道の「相馬インターチェンジ」と「相馬山上インターチェンジ」間の開通式に出席させていただきました。

当区間の開通によりまして、相馬地方の高速道路ネットワークが強化され、被災地の復旧・復興が一層加速されることを期待しておるところでございます。

また、相馬市で「相馬市伝承鎮魂祈念館」を、福島市でこの「福島県営あづま球場」を視察させていただいたところでございます。大震災の多様な記憶、あるいは教訓が風化することのないように、その経験などを広く国民に共有するとともに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、復興しつつある被災地の姿を、国内外の皆様にお伝えをしてまいりたいと思っておるところでございます。

今日は穏やかな天気で行きましたし、私も本当にいろいろと市長さん、あるいは議会関係の議長さん始め、多くの方にお目にかかってお話を伺うことができました。また、おいしいイチゴもいただきましたし、市長さん自ら相馬市の被害状況、また海水浴のお客さんの数の問題や、今、水産物のいろんな取り組みが行われておりますけれども、事情の御説明もありました。これからさらに私たちも力を入れて復興に取り組んでいく、まさしく地元の現場主義、そして被災地の皆さんに寄り添うと、こういう気持ちを重ねて重ねて強くしたところでございます。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 復興・創生期間後の予算、継続的な対応というのは予算が通りましたが、それについてどのように取り組んでいきたいかというのをお聞かせ願えますでしょうか。

(答) 復興・創生期間後の取り組みについては、もう御存じかと思えますけれども、先日基本方針を内閣で決定させていただいて、また予算等につきましても、いろいろと取り組みをしておるところでございます。いずれにしましても、地震・津波地域につきましては、岩手県、宮城県の知事さんたちからも、いろんなお話がご

ございました。特に子供さんたちのケアに対しては、きめ細かくこれからもやってほしいということ、また、いろんな事業につきましても、ケース・バイ・ケース、それぞれにきめ細やかな対応をしてほしいということをごさいますして、そのように取り組んでまいりました。

原発の被災地域につきましても、浜通りを中心に、今復興の事業、それぞれに始まっておるところでございまして、また事業とともに常磐線の開通、あるいはそれぞれの今後の避難の解除等も含めて、これからというところでもございまして。私たちもそれぞれの自治体の皆さん、あるいは関係省庁の方々と十分詰めて、実のある事業を展開してまいりたいと思っております。

特に今後、年が明けると通常国会が開かれて、我々も予算に合わせて、特に法律案の審議のお願い等をしなければならないわけでもございまして、その中でいろんなことを国会の中で議論し、御説明してまいりたいと思っております。

以上でございます。

(問) 大臣就任以降、初めてあづま球場を訪問されたと思うんですが、実際にご覧になってみて、どのような感想をお持ちですか。

(答) リニューアルと聞いておりましたので、どういうふうに準備が進んでいるのかなと思ったんですが、御説明、そして自分自身でも見てまいりまして、本当によく仕上がってきているなという思いでございます。

特にこの東京オリンピック・パラリンピックの開会式の前の試合となるわけでもございまして、世界の注目を集める試合が、ここで行われるわけでもございまして、期待とともに、ぜひひとつ発信力を強めるプレイをしていきたいなと思っております。私は今日拝見させていただいて、本当によかったなと思っております。福島県民の皆さんとともに、これから力を入れて、東京オリンピック・パラリンピック、復興五輪の成功に向けてひとつ頑張らせていただきたいと思います。

(以 上)